



学会ホームページ <http://jasce.jp>

069号 (2023年1月31日)

目次

年頭のご挨拶
次期大会開催地からのご挨拶
第6回オンライン講座「日本の協同学習」開催のご案内
学会ワークショップ開催報告
『協同と教育』への投稿募集中
各地の研究会・勉強会
出版情報

年頭のご挨拶

あけましておめでとうございます。

本年も会員の皆様の実践ならびに研究のご発展をお祈りします。本会が創造的で活発な交流の場となるよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

第七期の新役員体制が発足し、初めての新年を迎えました。この間、昨年12月25日には、会長、副会長、事務局長、各委員会の代表から成る「企画委員会」を開きました。各委員会の活動状況を確認するとともに、第七期中に解決すべき課題を共有しました。編集委員会では「看図アプローチ」を特集した最新号の編集を鋭意進めています。研修委員会ではオンライン研修講座の継続実施と対面による各種ワークショップ再開の実現に向け、その日程と開催方法の具体を検討しています。広報委員会では本号を含め既に2回のニュースレターを発行し、学会の広報活動のアップグレードに向けた活発な議論を重ねています。

本会は2004年5月に中京大学で設立総会を、また同年11月に久留米大学で第1回大会を開催しました。本年2023(令和5)年は学会発足20年の節目にあたります。本年11月4日(土)～5日(日)には、比治山大学(広島)を会場に第19回大会を開催します。一度の中止、二度のオンライン大会を経て、対面での開催は実に4年ぶりとなります。同大の佐々木淳先生をはじめ大会実行委員会の皆様には、コロナ禍の困難にも関わらず、対面開催の実現に向けて多大なご尽力を頂いています。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

第七波を超える第八波も、未だそのピークが見えません。にもかかわらず、社会全体は平常運転に戻りつつあります。そのような折り、昨年12月には『生徒指導提要』が12年ぶりに全面改訂されました。中教審答申『『令和の日本型学校教育』を担う教員の養成・採用・研修等の在り方について』とこれに基づく「改革工程表(案)」の公表により、再び大きな改革の波が予想されます。また公教育をめぐる気がかりなニュースも続きました。ひとつは2021年度(令和3年度)公立学校教職員のうち精神疾患による病気休職者が前年度比694人増の5,897人で過去最多となったこと。いまひとつは「通常学級に通う公立小中学校の児童生徒の8.8%に発達障害の可能性がある(医師の診断や専門家の判断によるものではなく、学級担任による回答)」こと。いずれも文科省調査によるものです。

数値の背後にある複合的な要因に眼向けなければなりません。特定の不利な条件を背負う方に、著しく困難な状況を強いている社会的・構造的な問題があるはず。「協同」を理念に掲げる本会会員の教育・研究活動は、このような課題を分析・解明したり、解決への示唆を提供したり、あるいはその未然防止と豊かな教育の実現に資する大きな力を持っています。会員の皆様の実践ならびに研究の多様性が豊かに関わり合い、ともに高め合う1年となりますよう、心からお願い申し上げます。

2023年1月1日

日本協同教育学会会長 高旗浩志

次期大会開催地からのご挨拶

会員のみなさま、新年明けましておめでとうございます。第19回大会は、令和5年11月4日(土)～11月5日(日)に比治山大学(広島県広島市)で開催いたします。久々の全国大会の対面開催ということで、本学においても会員の皆さまにお会いできることを大変楽しみにしております。

学校法人比治山学園は、令和元年に創立80周年を迎えました。本学は大学(2学部5学科)と短期大学部(3学科)で構成されています。「悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」という建学の精神のもと、生涯にわたって自ら学び続ける人材の育成をめざして新しい時代に即した教育を進めており、4つの核となる能力「自立」「想像」「共生」「創造」に、3つ

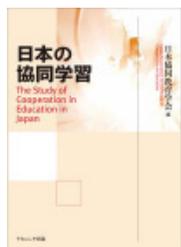
JASCE

ずつの学修スキルを組み合わせさせた「4×3の比治山力」(汎用的能力)を育成しています。また、令和4年度からは「学生の成長実感・満足度を高める」教育の実施というコンセプトのもと教育改革を始めました。そのような中、本学で日本協同教育学会の全国大会を開催できることを大変光栄に思っております。

実りある秋に、実り多い研究・授業実践報告など多数のご応募をお待ちしております。

第19回大会実行委員長
比治山大学 佐々木 淳

第6回オンライン講座「日本の協同学習」開催のご案内



2023年2月18日(土)14時から、第6回オンライン講座「日本の協同学習」を開催いたします。この講座は、学会設立15周年を記念して会員の皆さまに配本した『日本の協同学習』(2019, ナカニシヤ出版)をテキストとして1章ずつ学ぶものです。第6回は南山大学名誉教授の石田裕久先生を講師としてお迎えし、第5章「自己教育力を育む評価と協同学習」のご講話とご講話に基づく参加者間の交流を予定しています。学会ホームページから参加の申し込みをされた方にZoomのアドレスを送付いたします。テキストをご準備いただければ、未会員の皆様のご参加も大歓迎です。参加費は無料です。皆さまのご参加をお待ちしております。

なお、オンライン講座は2023年度も継続実施の予定です。ニューズレターならびに学会ホームページで

ご案内してまいります。

研修委員会 (kenshu@jasce.jp)

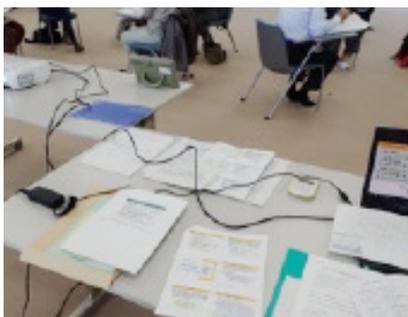
学会ワークショップ開催報告 ＜アドバンス＞

2022年11月26日(土)～27日(日)

【公認】

会場：南山大学(名古屋市)

講師：長濱文与・石田裕久



南山大学人間関係研究センター主催の＜アドバンス＞が、8月の＜ベーシック＞に続いて3年ぶりに開講されました。折しもコロナの第八波急拡大の時期と重なり、感染による直前キャンセルもあって、参加者は10名と例年の半数以下でしたが、取り組みに対する熱意はどなたもいつになく高いように見受けられました。

参加された方々からは「具体的かつ体験的であり明日からの実践に活かしたい」「協同する力は看護教育に必要な不可欠であるため、授業実践に役立てられると思う」「普段あいまいにしていたことを明確にすることができた。一人で考えていたことを他者とアイデアを出し合うことで安心と自信につながった」「教育相談に通じるものがあり、グループの対応が個の対応にもあてはまるので生徒指導への参考になった」などの感想が寄せられました。

(石田裕久)

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています(次号は第18号です)。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

各地の研究会・勉強会

(東海地域)

名古屋・協同の学びをつくる研究会
◇2023年2月例会を2月18日(土)13時30分から愛知文教大学ABUラウンジにて開催します。今回の例会は対面のセミナー形式で行います。「愛知文教大学 学び合う学び研究会」「授業で育つ教師の会」との共同開催です。テーマは「対話による深い学びの実現」、報告者は水野正朗(東海学園大学)です。内容の詳細、申込方法、アクセスは「学び合う学び研究所」HPをご参照ください。
<https://www13.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2390267&type=4>

コロナ禍の影響で例会開催を休止していました。これからは年4程度程度の開催を目指します。

連絡先：水野正朗(東海学園大学)
mizuno-ma@tokaigakuen-u.ac.jp

協同学習と動機づけ研究会(三重)

◇第4回協同学習と動機づけ研究会を2023年3月18日(土)13:30～16:30に三重大学教育学部での教室を会場として開催いたします。小学校での授業実践の様子を動画で視聴し、協同学習と動機づけについて考えていきたいと思っております。なお、当日は杉江修治先生をお招きし、議論を深めていきます。詳細ならびに

JASCE

参加申し込みについては、以下のページをご覧ください。<https://forms.gle/XrhHysWJTMohUFjR9>

連絡先：中西良文 (nakanishi.yo.shifumi.mie.u.ac.jp@gmail.com)

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

◇第45回「協同学習を用いた看護教育研究会」を11月26日(土)14:00～16:30にオンラインで開催しました(企画・運営担当：織田千賀子・小八重和子・牧野典子)。18名の参加があり、初めての参加者1名を歓迎しました。テーマは「LTD話し合い学習法の体験」で、授業・実習での活用を考えていくことを目的に企画しました。

LTD話し合い学習法の認知度は「よく知っている、ある程度知っている」が12名、「あまり知らない」が6名、授業での実践経験は「経験あり」と「なし」が半々であったことから、3名編成6グループを作りました。課題文は『日本の協同学習』p.101-102、文教大学教授、会沢信彦先生のColumn4「アドラー心理学と協同学習」を使わせていただきました。参加者は事前に配付された資料を参考にして事前学習を行い、当日にLTD過程プランのミーティングをブレイクアウトルームで体験しました。体験を4段階に分け、step1「雰囲気づくり」を体験①、step2「言葉の理解」～step4「話題の理解」を体験②、step5「知識との関連づけ」～step7「課題文の評価」を体験③、step8「振り返り」を体験④として、体験と体験の間に全体会を行いグループ間の情報交換を行いました。

その結果、step2では多くの用語についてメンバー間の共通理解が必要であったことから、授業で活用する

際には課題文の内容によって時間配分を考慮する必要があることが提案されました。また、実際に体験してみてもstep3とstep4の違いやstep5とstep6の違いについての理解が曖昧であることに気づき、話し合うことで共通理解を得ることができました。以上より、実践経験者の工夫や未経験者の疑問を尊重した話し合いを通して、「学生には丁寧に説明する必要がある」「課題文の選択が重要だ」など、実践に向けた方向性と課題を明らかにすることができました。文責：11月企画・運営担当者

◇第46回研究会は、2023年1月21日(土)14:00～16:30にオンラインで開催、テーマは「マインドマップ(理論編)」でした。第47回研究会は、2023年3月19日(日)10:00～12:00に対面で開催(場所は高槻市のクロスパル高槻)、テーマは「マインドマップ(実践編)」です。これらについては次回のニューズレターで報告させていただきます。

連絡先 代表：緒方巧 (t-ogata@baika.ac.jp)

(中四国地域)

協同学習研究会(岡山)

◇本年度第4回の研究会を2023年3月4日(土)午後2時より開催します。話題提供者は岡山県瀬戸内市立牛窓西小学校の東原猛琉先生です。小学2年生の授業を動画にて公開頂きます。関心をお持ちの方は私までメールにてご連絡ください。参加方法等をご案内します。なお、既に当方で連絡先を把握している方には、2月に入ってから詳細をご案内します。

連絡先：高旗浩志(岡山大学教師教育開発センター takahata@okayama-u.ac.jp)

(九州地域)

協同教育研究所「結風」主催「協同教育研究会」

◇第56回開催報告

2022年12月10日(土)13時から16時まで、3年ぶりに『対面』で開催しました。参加者は28名、久しぶりの対面に思わず涙ぐむメンバーもおられました。初めての参加者も8名おられ、賑やかな会になりました。会の概要を報告します。

(1) 挨拶・導入

4名グループをつくり、「協同の技法をもちいた自己紹介」と「協同学習の基礎基本」について学びました。

(2) 「原点回帰・初版テキストから読み解くLTD — Hill(1962)とRabow et al.(1994)との比較を通して—」講師：安永 悟(久留米大学)

LTDの初版テキスト(Hill, 1962)と改訂版テキスト(Rabow et al., 1994)とを比較検討することにより、LTDの創案者であるHillの想いを読み解き、今後のLTD型授業のさらなる改善と展開について、参加者の皆さんと意見交換をしました。

冒頭には、LTD過程プランについてグループで学ぶ時間も設けられました。協同の精神に満ちたLTDに詳しい参加者からのサポートもあり、LTD初心者の方の皆さんも安心して参加することができました。

(3) 協同カフェ 担当：須藤 文(久留米大学)

協同学習に関して、参加者が疑問に思っていることや質問したいこと、さらには自分の実践について、参加者同士が自由に交流しながら理解を深めることを目的としたカフェを実施しました。グループでの交流の後、「技法：特派員」を使ってグループ間交流も行いました。活発な意見交流がなされ、時間が足りないほど

JASCE

でした。

研究会終了後には、研究会と同じ会場で、飲食を伴わない情報交換会を60分程度行いました。

◇第57回開催案内

2月25日(土)13時から、久留米大学にて対面で開催します。天使大学の鹿内信善先生をお招きして看図アプローチを学ぶ会を予定しています。概要を紹介します。

* * * * *

看図アプローチを学ぶ会『看図アプローチで活性化する探究学習』

2018年に改訂された高校の新学期指導要領では、「〇〇探究」という名称の科目がいくつか誕生しました。文科省(2011)は「探究的な学習」と「協同的な学習」を融合させた学習指導を推奨しています。「看図アプローチ」は、協同学習を促進する有効なツールです。このことを手掛かりとして、「〇〇探究」や「探究的な学習」の授業づくりを、「看図アプローチ」はサポートすることができます。わたしたち看図アプローチ研究会は、これまでに「古典探究」「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」「総合的な探究の時間」について、看図アプローチを活用した授業モデルを開発してきて

います。今回は、これらの授業モデルのいくつかを、参加された先生方に体験していただきます。さらに、看図アプローチ研究会の3大発明のひとつである、「きゅうちゃん」の使い方も紹介します。「きゅうちゃん」は探究学習でも大活躍してくれます。

小中高大等、あらゆる校種の先生方と一緒に、看図アプローチを活用した探究学習の支援方法を考えていきたいと思えます。(鹿内 信善)

* * * * *

詳しい日程につきましては、「結風」HPをご覧ください。

問合せ先：ご不明な点があれば、次までお願いします。

協同教育研究所「結風」office@yasunaga.me

(全地域)

全国看図アプローチ研究会

◇『全国看図アプローチ研究会研究誌』16号を公刊しました。

最近「きゅうちゃん」を活用した実践が増えてきました。「きゅうちゃん」はとても活用範囲の広い「協同学習促進ツール」です。多くの方に「きゅうちゃん」と出会っていただくために、「きゅうちゃん」の連載を始めました。

まずは、「きゅうちゃん誕生編」です。掲載論文

1. 「看図アプローチ語りカフェ」を活用した1年生の自分作文—過去現在未来の自分に似たきゅうちゃんて思いを綴る—(田中 岬・石田ゆき)

https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.16_pp.3-28.pdf

2. きゅうちゃんの歴史(I)—誕生編—(石田ゆき)

https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.16_pp.29-37.pdf

3. 看図アプローチを活用した精神看護学の授業展開—「人権擁護」と「倫理」について考える—(田中雅美)

https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.16_pp.39-44.pdf

4. 編集後記(鹿内信善)・奥付

<https://kanzu-approach.com/journal/journal-vol.16-henshukoki.pdf>

連絡先：研究会事務局長 山下雅佳実 (a-yama@nakamura-u.ac)

鹿内信善 (Shikanai) : shikanai.nobuyoshi@tenshi.ac.jp

出版情報

スクールリーダーのための教育効果を高めるマインドフレーム

—可視化された学校づくりの10の秘訣—



教育指導職が「指導および自身の役割をどう考えるのか」は、生徒と教師「両方」の学びに大きな影響を与える。Visible Learning(可視化された学習)のメタ分析を踏まえ、校長や教頭、さらに指導教諭や中堅教師らのミドルリーダーが身につけるべき10のマインドフレーム(ものの見方・考え方)を示す。教室や職員室、教員研修等の場面で、学校を内側からの改革に導く実践的なアイデアを提案している。教育者が「指導および自身の役割

をどう考えるのか」、こうした教育者の構えが生徒や教師の学びに大きな影響を与えると説く。セルフ・エフィカシー(自己効力感)のみならず、協同学習の精神に通じるコレクティブ・エフィカシー(集合的効力感)の醸成を説くところは、個別最適化の学びと協同の学びを一体的に進めていく意味を探究する上で確かな指針を提供してくれるだろう。原田信之(訳者代表)、田端健人、宇都宮明子、高旗浩志(訳者)、北大路書房。